

<支部連絡窓口>  
千葉県隊友会館山支部  
事務局(代表)川村 巖  
Tel. 0470-22-0230



<群司令へ出発報告>

8月2日、派遣海賊対処行動・第31次水上部隊の一員として参加する派遣隊長山根英和2等海佐以下2チーム8名の隊員が、自衛隊協力会会長(館山市長)、市議会議員ほか協力団体等代表者、隊員・家族らの見送りのもと勇躍壮途につきました。館山航空基地からの出発は実に2年ぶりで日本からはるか8,000キロ以上離れたソマリア沖アデン湾では、依然として海賊対処行動が続けられていることを改めて認識させられました。

任務の完遂とともに無事の帰国を衷心より祈念いたします。



<見送りの隊員・家族>

### 支部の活動概要

#### <<8・9月活動実績>>

- 8. 2(木) 派遣海賊対処行動飛行隊出発見送り
- 8.26(日) 9都県市合同防災訓練研修(勝浦市)
- 9.12(水) 市民講座(コミセン)  
「続々歴史認識・日中近代史の深層を探る」
- 9..29(土) 9月支部役員会(コミセン)

#### <<10・11月活動予定>>

- 10. 5(金) 館山航空基地交流会(館山会・館山支部主催)
- 10. 6(土) 館山航空基地開隊65周年記念行事
- 10. 7(日) 千葉県護国神社秋季例大祭清掃奉仕(千葉市)
- 10.10(木) 旧海軍予備学生慰霊祭(安房神社)
- 11. .9(金) 館山航空基地殉職隊員慰霊祭
- 12. 1(土) 11月支部役員会(コミセン)

## 9都県市合同防災訓練研修 8.26(日) 勝浦市

第39回9都県市合同防災訓練が勝浦市で行われ、千葉県隊友会から小淵会長以下29名の会員が参加しました。直接、訓練に参加する立場ではなく、県隊友会として防災関連事業活動に必要な情報等を収集するための研修(参観)です。

<今回の訓練想定> 「相模トラフ沿いを震源とする大地震が発生し、勝浦市では震度6強を観測、強い揺れによる家屋倒壊などの被害が多数発生し、ライフライン機能も麻痺している。沿岸部では津波来襲の恐れが出ている」

想定を受けて救出救助や避難所運営などの実動訓練が各所で展開されておりますが、細部は省略します。

<川村記>

<訓練の点描>



#### <左上:災害監視ソリューション・大画面マルチディスプレイ>

今回の訓練のメイン会場になった勝浦中学校の校庭に設置され、各所で行われる訓練の状況や航空機やドローンからの情報をリアルタイムで、所要に応じて複数の情報を同時に表示することも可能(マルチディスプレイ) 現在では防災に限らず多くの場所・機会に使用されている。



#### <左:ヘリコプターによる救出訓練>

4階建て校舎屋上からの人員救助の実演場面。これ以降は、ヘリのダウンウオッシュのため砂塵騰々、撮影は不可能でした。

陸自ヘリによる空挺隊員数名の校舎屋上へのリペリング降下はさすがに圧巻でした。

#### <勝浦の地形>

丘陵性の山地が広く分布する地形で地域の三分の二が山地と言われる。メイン会場の勝浦中学校も高台にあり、近くの勝浦市役所(海拔44m)、消防署なども同じような高台に建てられています。地域の防災計画によって建てられたものでしょう。

## 館山商工会議所青年部創立60周年記念式典を館山航空基地で 8.24(金)

### 間立青年部会長(県隊友会特別会員)にインタビュー

8月24日(金)、館山航空基地にて館山商工会議所青年部の創立60周年記念式典が、第21航空群司令、浜田参議院議員、三沢県議、金丸館山市長ほか青年部OBなど124名出席のもと、盛会裡に行われました。

開会冒頭の第21航空群司令小俣海将補の防衛講話では、最近の海外派遣や我が国を取り巻く安全保障環境の中で海上自衛隊・第21航空群が果たす役割について強調があり、来賓祝辞では今後の事業活動の取組に対する要望等が述べられました。

なお、参加者全員が「館山らしさをアピール」するため、南総里見八犬伝の図柄をあしらったオリジナルのアロハシャツを着用して行事に臨んだのも異彩を放っていました

間立会長(「プロフィール」参照)にインタビューを申し入れ青年部の事業活動や記念事業などについて概略紹介することになります。



<小俣群司令による防衛講話>



<格納庫で行われた記念式典・間立会長の開会挨拶>



### <間立(まだて)会長のプロフィール>

今年4月に第60代青年部会長として就任した間立 徹会長は、平成16年、当時の東京海上館山支社で代理店研修生として修行中、隊友会特別会員として館山支部に入会、以降、館山基地の開隊記念行事や観桜会など基地の行事には欠かさず参加していただいております。

現在、市内高井の専業代理店「リスキマネージメント(株)」代表取締役社長として手腕を振るい安房地域では実績を高く評価されております。

### 「館山商工会議所青年部」とは?

昭和34年に館山商工会議所から委嘱された45歳以下の経営者・後継者等からなる組織として発足し、現在52名の部員が在籍している。「地域社会の健全な発展を図る」商工会議所の活動の一翼を担い、「次代の先導者としての責任を自覚し、地域の経済的発展の支えとして、新しい文化的創造、豊かで住みよい郷土づくりに貢献する」ことを目的としている。 <青年部綱領> 主な事業活動として、20年以上続けられているイベント「全国大学フラスコフェスティバル」や移住支援、東北支援事業等を手掛けている。

### 商工会議所&同青年部と館山航空基地とはどんな関係?

○館山商工会議所が発足した1953(S28)年は、海上自衛隊館山航空隊が開隊した年であり、今日まで65年にわたって国防に任じてきた館山航空隊と地域社会の健全な発展を図る商工会議所とは、同じ時代を手を携えともに歩んできた長い歴史で結ばれている。

○館山の地で国防の任務に当たる航空隊・基地とともに、館山市の人口の5%以上を占め、長きにわたって市民として溶け込んできた隊員・家族の存在は、館山市の安全・安心の確保と地域経済・コミュニティの活性化に必要不可欠である。

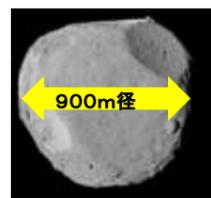
今回、創立60周年記念式典を館山基地で開催するに至ったのは、上述のように部隊・隊員に対する思いがあったからであり、部隊の任務と従事する隊員の労苦を、広く人々に知ってもらうことを期待したものです。

なお、7月には館山市長と商議所会頭が防衛省を訪れ、上記の趣旨を訴え館山基地の機能の強化を求める要望書を手交している。

<記念イベント> 来年3月に60周年記念事業の一環として「館山ふるさとまつり(城山公園)」が計画されている。

<インタビュー>: 川村

## 「はやぶさ2」小惑星リュウグウへの着陸に「わくわく」



地球から3億km近く離れた小惑星「リュウグウ」に、来月下旬、日本が4年前に打ち上げた無人探査機「はやぶさ2」が着陸するニュースに関心が集まっている。今月3日には「はやぶさ2」の着陸に先立ち2個の「物体」がリュウグウに投下されている。テレビ画面の「再現シーン」では、リュウグウ地表をピョンピョンと飛び跳ねる2個の円盤みたいな物体がなんとも微笑ましい。本体を安全確実に着陸させるための地形調査が目的で、いわば本体が突入する前の「先兵・偵察隊」と言うべきか。この円盤状の物体は直径18cm・重さ2kg弱の移動探査ロボットで、従来の車輪やキャタピラ方式では重力が極端に小さいリュウグウではまったく通用しないそうで、ピョンピョンは移動の手段として日本の科学技術陣が世界に先がけて開発した新兵器と言っても遜色がない。早速このロボットが撮影したリュウグウ地表の鮮明・高密度の画像が送られてきた。リュウグウ表面は岩石と砂利だけで「砂」は無いと言う。こんな細かいことまで識別できるのは日本の科学技術も捨てたものじゃない。

宇宙大国の米国や中国が、日本の無人探査機の打ち上げをどう評価しているのだろうか、これもまた興味深い。

ところで小惑星「リュウグウ」本体は、直径が900mだそうで、小惑星「イトカワ」同様、日本はなぜ小惑星にこだわるのだろうか。それなりの理由があるのであろう。オリンピックが開かれる2020年には、採取したサンプルを地球に持ち帰るといふ。宇宙・人類の起源の究明に結び付く貴重なデータが期待できるという。日本の宇宙科学技術陣に盛大なエールを送りたい。

<天体・宇宙マニア(海)>